

新編水滸畫傳

五編

六

875
46



門 21
 號 175
 卷 46

神書佛書醫書國書
 繪本手不新古賣買
 手遊いらく法存の間
 河内文了らとらと上

後河内三休指西入

河内屋孫玄衛

新編水滸畫傳卷之四拾六

東武

高井蘭山翁

譯編

明治三〇年
 十一月十日
 購本

○李逵斧をのりて死なんとす。三更ふ思ひ
 出。美人の居る近づくを窺ふ。独自雲床の小坐し。自ら向ひ
 ぬ枝の燈燭を點し。一炉の香を焚き。経を讀み。ほかに寝
 寥々。おき。李逵心中罵り。這城美人今宵絶命之と嘆ひ
 遠に戸を推し。入り。二ツの斧を揮て死なんとす。美人は
 雲床の上より滾び落。血流れて。府上に滴く。李逵これを見て
 大に泣び。再び外面に跳り。美人は白血の流るるを血柳子
 出さる。え陽の光氣を背ひ。泣く。泣く。又一人の童子出

来て大罵り乃ハ汝兇賊いんぞ我が師を殺せしぞや李達是
 ぞと只一盃も茶飲急に斧を揮て是をもちに砍殺し飛ぶ
 親門の外より出二仙山せり再び公孫猪が後堂に入て歇り
 翌日公孫猪酒食を殺けて友人を餐食今日又山の上で老師小
 家と告いんとりて作客と慕ふんとて二人又山の上より一
 李達心中小冷笑ふと久も只何とあはれ辞よりてまゝも松
 軒の肉小入しぬ火友人の童子出て公孫猪と迎へし公孫猪問て
 云老師を何れおまゝも童子答て友人は今雲麻小坐し法
 と書ひ居る李達は云と笑て大怖る暗に舌を伸し是は誰れ
 慄さなり二人遂小雲麻の前に入り跪きし公孫猪人問て云汝二人
 又何の事なりや戴宗漢で云那くは一人一熊の慈悲と畜むひて

他人の意を救ひて我れ先汝小官彼天漢子の推るなり
 戴宗答ていそ是を余の義才姓ハ李名ハ達と申之程友人亦笑
 て云我れと公孫猪と答すまがと思ひし程李達とやうんが一片の
 苦心と感して公孫猪と許はし李達はと笑て我れが心汝を害
 せんと思ふぞ知かくハ云うんと程しり程友人又云我今汝二人
 と片時の男小官を別へてしめ可なりんや三人の志を謝して云
 りかくの事とせはも莫大の喜ひん戴宗又暗におもふや程友人
 人の法を定めて我が神法の法よりも大小猪りつゝんと感しり程友人
 人三つの心帕と出して云らる汝二人宜しく我小控し来れ汝は法
 と行て見せしめんとして別三人を延て親介の大石の辺りにあり先程
 子帕と云の上より来て公孫猪と坐せし程友人自ら一白の咒符と云し

つるふ。子帕をちり一片の紅葉とまじり。公孫傍で載車に坐すの裡に飛
りぬ。夫人又まじり子帕を石の上に鋪て戴宗と坐せしむ。再び一句の
咒文を念じしめ。又一片の紅葉とまじり。戴宗と載車に坐す。夫人又
夫人又白き子帕を石の上におきて。李逵と坐せしめ。再び一句の咒文
を念じしめ。ちり一片の白雲とまじり。李逵と載車に坐す。夫人又
飛起りぬ。総て三片の雲。三個の人と載て空中に飛し。三人のまじり
着中に在る心地して。奇異の思ひをなす。良久し。して。後夫人石の
どわげて。ちり一片の紅葉とまじり。李逵と載車に坐す。夫人又
中これと感謝し。源く夫人と感謝し。李逵は尚空中に坐す。夫人
小降り。ちり一片の紅葉とまじり。一人と空中に坐す。夫人又
夫人天と作て云る。我が密かな出家の身なれば。若く汝と犯し。と

あまに。汝は何ゆゑ暗に忍び入て我を欺り。我は徳あり。遂に
汝を殺さん。况や我が一人の童子をも欺殺せり。李逵叱りて云。堂
と別る。李逵とまじり。夫人自ら人差ひみだし。夫人又笑ふ。と云
汝已に夫人と欺ぬると。又。實に我が二の葫芦と欺り。汝がん。欺
不苦む。おのづから。我今汝を禍を為し。一むして。再び一句の咒文を念
じしめ。ちり一片の紅葉とまじり。黒旋風と雲中へ吹入し。知れ。忽ち
夫人の着中へ力士神現れ。李逵がたふ。踏て。空中と飛り。李逵は
只耳の裡に風の聲の響く。つめて。速に蕪州の城中にきて。知府が家の瓦
の上へ落る。知府と始として。一家中の者これを見て。驚皆大。小
稀。其のついで。思ひ。下友を。遂に李逵と。塔の下へ引出し。られ。知
府馬士。弘大。小。怒り。て。云。汝は。い。ゆる。妖人。な。れば。半。天。の。裡。より。降。る。や

新編水滸傳卷之二十一



羅真人之神通
 李逵之空中飛上之圖



李達は時瓦小撞して面と衝破りし。渾身血小滌只昏くと呆れり。斗りて更に勢をも徹さうり。知府又云は妖人小難は。妖法と破る。お醒醒と流水とひて面上に流ぐと夢乃の速小是と引ひして。左存小命トられ。下友を救う二役の糞水などせ扱で。李達が面に流し。處小。李達大に苦じ。唯う去る。我の是妖人小め。乃乃。死去人の骨子。之必ぞ率余のともせり。おふ。耐小一人の下友をせ出。知府小若て。云。死去人の骨天下小。名の活神。仙有り。若被が骨子とせ。めり。刑。四符を加へ。おふとせり。知府笑てい。我千巻の書と讀で。毎に古今の。とせ。破ぬれ。神仙の骨子小かくの下。死相の者めるとせ。見れば。彼必。定妖人小。終の。は。と。お速下。友に命トて。策られ。下友を。李達と社割し。と。散く。に。歩る。に。忽ち。皮。肉。破れて。鮮血。滾くと。

流れり。李達は小。法。ば。して。妖人。なる。より。白。状。し。し。ふ。知。府。先。高。級。小。命。ト。て。李。達。と。牢。中。に。せ。り。り。李。達。は。日。より。牢。中。に。在。て。小。牢。子。小。孤。赫。して。我。を。実。に。死。去。人。の。骨。子。直。日。神。乃。之。海。新。我。と。辱。し。と。久。も。凡。夫。を。れ。後。の。災。と。も。は。我。を。して。獲。別。城。の。人。民。を。害。せん。と。日。久。し。う。る。ま。し。耐。必。は。後。悔。を。し。め。ん。小。牢。子。ホ。れ。と。少。し。暗。小。お。ひ。り。り。死。去。人。ハ。亦。来。乃。徳。法。を。た。る。活。神。仙。之。り。を。骨。子。小。詐。を。く。は。是。又。林。西。廣。大。中。人。第一。術。と。ひ。て。牢。中。で。脱。れ。出。る。と。め。ふ。仇。と。も。又。大。お。り。ん。只。一。人。と。れ。と。敬。を。と。して。虎。皆。李。達。小。向。て。懇。懇。小。官。乃。ハ。見。ハ。い。く。死。去。人。の。骨。子。に。偽。り。さ。や。李。達。ハ。云。我。何。と。偽。り。知。れ。ん。我。不。思。師。命。に。違。さ。し。由。友。老師。故。去。我。を。は。如。に。撒。て。罪。若。と。交。し。め。り。若。二。三。日。と。經。る。必。ず。

来て我ど復しぬべし。汝も多し酒食と云へて我小用ひぬ。我
肯て汝ホと免すべし。又程く見て悔るといふ。我も牢の復海に
に仇とあさん。小牢子も毛とつて大怖れ。淨水の湯と浴せ。新衣と着せ。
酒食と款待とそつて。叔母夫人の李達と蘇州に持て。強と驚く。一
つと戴宗小使りぬ。戴宗大少。只願哀と告。李達と救ひぬ。
へし。俺小つて。府夫人。今日も戴宗と親裡に。めめて。山陣のつと。官
戴宗告て。云。晁宋志。以。仇。手。来。義。と。尊。ん。つ。材。と。程。ん。つ。ち。つ。只。天。に
替て。乃。と。つ。ひ。毫。髪。も。た。片。烈。士。義。夫。弟。弟。ホ。と。害。す。の。心。なり。今。梁
山。泊。上。て。指。ら。く。胡。延。に。な。く。へ。已。と。と。つ。ぎ。る。バ。仇。之。府。夫人。ん。と。つ。て。大
小。使。ひ。戴。宗。と。あ。つ。て。已。に。又。六。日。小。使。り。し。如。此。戴。宗。の。公。孫。孫。も。つ。り。
合。て。夫。人。と。童。子。と。李。達。が。欣。一。つ。の。と。并。に。ま。れ。小。李。達。と。得。る。もの

何さうに心ぬぞ。李達らの間には。右機腕の勸と。さうと。あ。つ。た。夫人小
女。孫。孫。の。同。て。始。て。驚。入。何。の。後。合。も。及。び。已。が。れ。の。さ。ま。お。れ。せ。り。
つ。つ。と。あ。り。し。や。と。あ。れ。入。る。再。三。お。謝。し。何。と。李。達。が。一。命。と。お。け。あ。ん。と
哭。し。つ。つ。府。夫人。れ。と。つ。て。い。て。汝。も。公。孫。孫。も。知。ら。ず。所。以。ハ。我。え。来
衆。知。せ。り。但。し。彼。ど。れ。狂。徒。と。山。陣。小。携。て。何。の。益。あり。や。戴。宗。が。云。彼。を
忍。畜。う。て。礼。法。と。曉。さ。げ。と。之。也。勝。る。お。わ。り。第。一。重。実。う。て。人。を
操。也。第。二。人。小。福。を。死。す。も。そ。た。と。改。次。第。三。淫。慾。お。か。わ。り。材
と。貪。り。義。賊。背。く。と。ち。う。孫。事。に。遇。ふ。と。さ。の。教。て。勇。て。尚。先。小。を。む。是。小
よ。の。と。宋。官。明。と。宿。と。堂。に。孫。我。李。達。と。救。へ。ん。バ。再。び。宋。長。兄。小。ま。ま。え
は。し。府。夫人。告。て。云。我。も。已。に。彼。の。天。罡。星。の。教。う。つ。今。下。界。小。路。一。所。以
を。曉。し。事。に。我。豈。夫。小。逆。く。は。人。と。傷。え。ん。や。唯。恐。く。彼。小。孫。と。交。し。ぬ

性と改めさせん為に我少刻彼を九若汝小還其さぞ戴宗是とて
 汝く去人とお射に去人又却と揚て力士何れ小立やと叫り六勿ら
 松鶴軒の若に一陣の風起り。其風する如小一等の力士神現れ出て去人
 小若らる。我師何の事あるを尋て呼由や。府去人云我若日汝に
 命ト蘄州に撤しめらる彼李達今已に罪業洩ゆる若汝再び蘄州
 に馳て彼を牢中より奪え速に回入し力士神命と奉つて忽ち牢
 中に死より已に形と書中に隠し。未ど未刻もさざらぬ。又牢中に現れ
 て李達と鶴軒の若に隠し。乃れ戴宗忙し。李達と投起し。て
 府去人の若に出るに李達は去人と云て再び我を。恭し。罪と謝
 し。悔ふ。去人云汝自今以後宜しく性と戒め力と竭し。宋公明と
 扱ふ必ず忍心と起以る。李達再おして去人の教化と慕りぬ

戴宗又李達小回て云汝は数日おづれの如に立しや。李達答て云若日
 白雲小笠。飢飽とて牢中に立し。忽ち去人の力士神現れて左
 右小從ひ。一陣の猛風に吹放され。蘄州城の知府が家に落ちぬ。知
 府我と捕へて去人云んと拷問し。醒醒と醒ぬと昏と。我が面上小
 澆。割へ痛く數十杖策て牢中に入る。彼の牢子を我小回て。ゆる
 神ぞと云らる由。我答て我は是府去人の去子。昨日神將たり。お。さ
 り。小。老。師。放。さ。し。堪。不。撤。て。苦。し。と。受。し。あ。ま。の。三。日。の。因。り
 又來て我と復し。い。い。汝。若。我。と。餐。食。せ。ん。は。我。去。牢。の。後。仇。と
 ち。は。見。え。と。赫。し。ん。ん。半。子。若。大。小。忍。れ。毎。日。笑。面。佳。看。と。具。て。款。待
 する。先。刻。一。人。の。力。士。神。來。て。牢。つ。と。完。と。我。小。命。ト。眼。と。受。さ。し。め。
 暫。時。の。乃。に。は。お。不。獲。來。れ。り。云。孫。傍。が。云。我。老。師。の。若。に。笑。中。の。力。士。神

一千餘人を使ひし。汝等宋に看らしむ。李達之んとて。蓋感歎し。
只顧去人とぞ。一たり。戴宗又同汝。飛去人と。妻子と。放さるは。このるふ
か。働せしや。我一雨不在して。その知らば。李達。取れ入て。若くは。飛去
兄。熟睡の間に。忍び生。祝門。不竊。入。飛去人と。攻殺する。実情。を。傳て。保
入。れ。ば。公孫。孫。戴宗。一。より。大。獲。せ。警。さ。去。人の。神。通。を。必。懼。し。る。ま。
李達も。今。又。一。回。飛去人の。事。を。と。肺。腑。不。保。て。涙。を。流。り。戴宗。又。去
人。不。若。く。云。我。が。家。を。唐。州。と。出。て。已。久。し。定。めて。宋。公。明。危。急。を。ん。
老師。速。に。公孫。孫。先生。を。放。ち。ま。う。若。し。宋。公。明。を。救。へ。し。め。る。人。の。
唐。州。を。破。る。ば。公孫。孫。先生。を。高。山。に。還。し。ま。う。ん。飛去人。が。云。我
れ。公孫。孫。を。許。さ。ま。う。り。れ。ば。汝。が。大。義。を。感。ず。我。が。許。て。これ。を。許
は。公孫。孫。を。金。ふ。し。た。と。成。す。べ。し。又。公孫。孫。不。對。し。て。汝。が。不。學。び

る。雨の法術へ。只。高。廉。と。等。し。て。彼。不。務。れ。る。而。ま。し。我。今。汝。に。又。雷
天。罡。の。正。法。を。授。け。ん。と。列。れ。て。傳。授。す。り。又。云。汝。は。法。不。依。て。宣。し
く。乃。ひ。宋。公。明。が。急。難。を。救。ふ。て。必。に。保。ち。民。を。安。ん。ど。天。不。智。く。乃。と。乃
ふ。べ。し。必。ず。人。の。為。不。惑。さ。れて。お。公。と。昧。す。む。る。と。な。れ。汝。が。老。母。は。我。朝
夕。介。抱。せ。ん。上。の。汝。一。點。も。憂。は。唯。公。を。日。に。し。力。を。保。せ。宋。公。明。と。御
ふ。我。又。八。ツ。の。字。を。你。に。示。さん。汝。是。を。始終。公。中。に。記。し。て。忘。れ。ぬ。期。に
條。で。自。ら。保。つ。と。め。ぶ。く。び。と。て。於。て。八。ツ。の。一。を。授。て。云。逢。幽。而。止。遇。汁
而。還。と。示。し。お。ひ。り。れ。ば。公孫。孫。を。れ。と。物。捕。し。列。ち。戴宗。李達。と。の。れ
三人。日。に。飛去人。不。對。し。列。れて。禁。ふ。り。又。老。母。不。巨。細。を。傳。へ。て
別。れ。て。告。事。を。出。三人。齊。し。て。唐。州。を。圍。む。を。棄。し。終。三。日。十。里。を。り
馳。り。戴宗。が。云。我。を。先。に。回。り。宋。公。明。不。死。と。告。知。せん。ま。公孫。孫。先生。の

李逵と共に大酒を造りて有りぬ。我再び申途小出してお迎ふ。公孫勝が云是を可之賢才の孫達小馳ぬつて。孫達も宋公明小形と稱へぬ。我の事二人の後よりお續て来るべし。これ於て戴宗は遂に二人小別れ。神形の法とる。恰も飛ぶごとく小急ぎなり。

○入雲龍法と岡ハくめて高廉と破

初に公孫勝李逵の海を舟と已に三日して。地名と武岡法と云。衆をゆるに以街極く繁華ありて。人煙あげく起のかり。買賣又混雜なり。公孫勝これを見て。李逵とらぬ。一間の酒店の内へ入て。酒を酌て飲むる如し。李逵公孫勝小對して云々。此店小酌して。牛肉猪肉の買ふて。先生の用ひらん。素食と賣に。我今先生の為る素食と承めて来らん。遂に酒店と立か。街の上に馳来る。舟の如し。

一族の人。街を圍んで在る。只顧驚て揚て。玄双の勇力と喝采らね。李逵もとめて。舟に立住り。一覽せり。圍の内一人の大漢子立て。二十餘斤の鉄鎚と使ひ。法人小着せし。李逵片時見えて。暗に冷笑ひ。忽ち圍の内へ跳入。大に叫り云々。汝いくんぞ。傍に吾人に鉄鎚と使ひて。法人に見せし。我今不忠をせし。見て。赤眼と汚しぬ。我熱の為小使ふて。汝小見せし。ん彼大漢子。お嘆て云。汝は何志をれ。高りに我が鉄鎚と使人と云や。我肯て汝小鉄鎚と借ん。速に使ふて見せし。ぬ。我今不忠をせし。汝が面に三つの拳と与へん。ぞとて。別鉄鎚と取て。李逵に借らね。李逵これを見て。恰も筋と弄ぶが如く。軽くと一場使ふて。せり。小。彼大漢子の脚と見て。大に驚き。忽ち地上小跪して。李逵が姓名と

同ひいふ。李逵答て云。先汝が姓名いん。且汝が住ぬの何れふら。彼漢子が云。我が住ぬの何れに。先我が家に来り。又とて。李逵と引て。回りり。如に。李逵家内を。見るに。多く。鉄砧。鉄鏈。火炉。鉗。鑿木の乃を。わし。李逵暗に。思ふ。漢子の。定めて。歩。鋸。匠。なるべし。若彼と。山陣に。誘引せ。多用。多う。ん。小我。宜しく。是と。保て。同。住。せ。可う。ん。と。引。引て。云。乃の。汝。亦く。姓。名。と。毎。一。我。不。知。く。且。彼。漢。子。答て。云。素。姓。の。湯。石。の。陸。と。号。し。亡。父。の。り。と。延。安。府。小。事。へ。一。く。ど。も。我。の。唯。遊。真。と。好。び。家。材。と。失。ひ。一。日。思。今。落。魂。して。此。如。に。還。過。の。こ。く。歩。鉄。匠。と。す。て。今日。の。色。活。と。人。皆。素。小。譚。名。と。施。して。金。錢。豹。子。と。稱。ふ。あ。ら。ば。豪。傑。の。美。姓。大。名。は。い。ん。李。逵。が。云。我。を。是。梁山。泊。の。既。成。風。旋。風。李。逵。と。云。志。あり。湯。陸。是。と。号。大。礼。と。行。て。

云々へ。長兄の大名と。夢と。雷の耳。小夷が。何の事。今。今日。是。教。と。物。一。事。李。逵。が。云。賢。才。は。如。に。在。とも。立。身。の。如。遠。く。ん。と。我。小。從。て。梁山。泊。に。來。り。子。速。既。成。と。名。で。福。と。保。つ。べ。湯。陸。大。小。娘。び。云。素。兄。り。素。と。山。陣。に。携。へ。む。大。名。の。芳。と。施。す。と。李。逵。と。義。と。結。ん。で。兄。弟。の。盟。と。誓。ひ。ら。ば。李。逵。大。小。娘。び。り。湯。陸。又。い。も。我。家。の。幸。ひ。着。居。わ。ら。ば。子。速。長。兄。小。陸。ひ。て。山。陣。に。上。り。ら。ん。昔。く。街。に。出。て。三。盃。と。飲。け。今。宵。の。熱。て。我。家。小。一。老。わ。り。明日。我。と。携。へ。て。山。陣。に。回。り。又。李。逵。が。云。我。一。人。の。先。生。小。同。伴。一。今。前。面。の。酒。店。に。の。り。て。候。有。ら。れ。今。日。意。に。回。る。湯。陸。が。い。も。素。兄。何。の。事。新。野。に。志。さ。わ。や。李。逵。が。云。汝。の。事。と。知。ま。う。宋。公。明。今。言。唐。州。小。茶。向。して。馬。廉。と。残。ひ。有。ら。け。れ。被。先。生。仕。り。く。馳。て。



李逵湯隆と

公孫勝小

見
志むる
國



金錢豹

市中
鐵槌を
つる國

親方の陳小なりあり汝いふく山疎小よりんたるは、
 て来れとて、
 見西。公孫務源く李達と埋怨て云。汝何意か。のどく、
 身の盟と結び一事を。委細小送りりれば。公孫務これとて奇持る
 斗ひと思ひひり。既しく三人の豪傑。河唐と出て。我固結と離れ。重ち
 此の唐州と事を馳りる。知れに戴宗とや。此れ小出て迎へ。一くば公孫務是
 せ。入て大小收び別れ戦の務負せ官らに。戴宗答て高廉今策旅平
 復し。毎日出て戦と挑も。宋と兄堅く陳とちりて出戦。比は先せの
 あり。今と孫佐と。李達又湯隆と引て戴宗小まえ。め。我と結び
 一次才を精しく。若しく。載宗これと收び。人日く。務と事とり。此

程に已に唐州の隅にあり。宋に陣と事を。程十里許と満る。此に
 呂方。郭盛とや百餘騎と於して出逐。遂に延て陳中れあり。宋に
 呂用をこれと接へて。各大小を收し。於て酒宴と復けて。凡我の疲と憂め
 たり。此の時に李達湯隆と引て宋に具用兵に法取れ。まま。一の日は各飲砂
 と。程しる。程日又又の。時分に軍の利意と。お調。宋に具用公孫務源
 と。並べて。陳を小馳出す。金鼓を一く鳴させ。遂に小城下に攻める。高廉陳中
 に立て。款書易く。と。呼ぶ。意に教甲と。差して。城外に。打て出す。三百の林をた
 右小從へて。小款陳に對し。互に攻鼓と。振て。喊の聲と。合せり。時に東
 江が陳中より大に十騎をもて。交迎に。おもる。たの方は。花景。春明。宋
 全敵。郭方もと。並て。お勅。右の方は。林冲。孫立。郭飛。郭
 盛の兵將。日く。務と並て。勅へり。中軍。又宋に具用公孫務源と勅へて

款陣と申すに門旗の下より二三十人の友軍を如府を廉と圍んで
 時希にをもつに知府先大者勢に罵ては水泊の盜賊らも我んと
 敵心わらべ唯一残の肉小猪頭と交せしむる走らざるに宋は是と
 て大不慮り作らる彼活捉と叫びしは小李廣花景と振りしを
 破せて突出さる廉が陣中より一人の上將薛元輝と云ふあしと揮
 て跑出さち小花榮と申して斬りしを花景も又槍を巻きてお迎へて
 陣あふ立て各勇と奮ひ戦ひ二十餘合あしし如に花景もあつ
 孤圓一途に薛元輝計と初めしと目ししと死せしと舞
 して趕来る花景これとて晴に弓矢多くあつて掃蕩して漂と
 放ちりれども花景もあつて薛元輝が喉に中てさう下射落し
 たりてに放て軍喊さ叫び入れれ功と争ひ死と持て攻めしを廉は

手しやあつ元輝が付れさるを見て大不慮り即ち口中に咒文を念ひ銅
 の牌と鼓ししを神玄隊裡より驟に恠き風起砂と走せしと死せしと
 天地と暗し喊の勢起ると齊し射狼虎豹木の恠獸毒虫空中
 に現れ出さち宋は陣中を走らして飛來る公孫勝も上小をてこれと見早
 くも宝劍と抜て咒文と誦へしを忽ち一道の金光生し款陣の中に沖
 入りしに敵軍を以て先と見て即時に神海と失ひて早く皆逃くとして
 地に墮り法軍を走らすに於て白紙とびて造りし射狼虎豹あり以
 時宋は勢に棄てて三軍ををり緊しし散ぐに攻しし城を數多付
 れてお付た付小放走し遂に城中に逃入りし梁山泊の云は猪小象て
 城下まで攻められしを城中より矢石の如く歩出ししれ宋は急に金と
 鳴ししと收め且要害の地と擇んで陣と列ち法政と聚めて

其功と痛むる小各六ひる務と泣く。宋は呉用并に張豪傑がて公孫
務の神功道徳と感歎せり。翌日又宋は玄と分て城の四面と圍せ緊
しく一齊に攻さしむ。公孫務別ち宋は呉用と對して云らる。唯の款の
一陣と起りしを彼三百の神を恙なく城中に引入し。其の廉が人
を殺る。突し今日けのどく緊く城と攻む。彼必定我軍の敵を
料り。今宵夜付小来て陣と却ふとみ。天色已に暗くは。彼れめ玄
と分てに方に伏せし。知るは。宋は呉用と復り。三軍に號令と傳へ。霹靂響
て陣中に火起る。彼おと定む。其方の伏せ一度にをせ。前後左右より
丸圍で撃し。め。只け一。残に。余。宋は呉用。この計と。以
て。義。小。日。い。よく。三軍と。を。めて。城と。緊く。攻。を。ま。の。下。刻。に。む。て。
遂に玄と陣中に收め。三軍に酒食と喫して。宋力と養せ。紅日。漸。西。小

沈て。天色着く。昏し。を。法。既。然。先。玄。と。飲。し。て。各。方。小。馳。て。埋伏
を。拏。宋。は。呉。用。公。孫。務。花。榮。秦。明。呂。方。郭。盛。ホ。は。三。軍。と。引。て。坂。の
上。に。登。り。暗。小。款。の。暮。と。候。ひ。り。以。夜。を。兼。果。し。て。款。の。敵。と。料。り。
宜し。く。夜。付。し。く。陣。と。却。ふ。し。と。三。軍。と。偈。し。被。神。を。ホ。し。各。器
の。内。に。硫。黃。硝。磺。の。火。薬。と。花。を。め。二。更。前。後。中。を。て。城。外。小。お。高
見。し。は。三。百。の。神。を。と。ま。せ。高。廉。は。自。ら。三。子。竹。箒。と。引。て。後。より。を。ま
ぬ。款。陣。に。を。付。し。高。廉。を。上。小。わ。り。妖。法。と。引。ひ。り。に。忽。ち。天
小。冲。て。妖。法。大。小。起。り。砂。と。飛。せ。る。と。走。せ。去。と。播。塵。と。揚。三。百。の。神。を
各。火。薬。に。火。と。着。て。一。向。陣。中。に。投。入。し。知。に。公。孫。務。を。と。知。り。上。て。宝
劍。と。揮。ひ。咒。符。と。誦。へ。法。と。や。り。れ。ば。空。陣。の。内。儀。小。刮。刺。々。と。響。て。
霹靂。大。小。起。り。三。百。の。神。を。是。れ。見。て。急。に。退。ん。と。り。知。小。空。陣。の。内。に

又猛火起て光臨半天お飛び。四方明をるる。恰も白昼の正。此時
 四面の伏を一度お並び奔り。引包で撃し。六百の神を一人も漏れ
 付らり。高麗これぞんで大お驚。僅三十餘人と引て城中に逃入
 ん。時豹子於林冲る。飛せ追来り。殺ぐに撃し。高麗ハ
 只又六騎と作。這く城中に逃入り。一夜或る付れ。又お投せらる
 友軍を救と知べ。翌日又宋江を引て城をま。お丸圍。水と
 も洩さ。四面より攻られ。高麗蓋。暗に城中お忍ひ。兵多
 年学い。妖術料。今自款。お忍れ。今又迎へ。殺せん計也。只
 徒志と若て。獲のを。と。此。書等と修へ。友人の統制友
 お令。先東昌冠。別。取。弛。る。友人の統制。日。城。で。死。て
 斬て。出。ち。お。あ。と。中。で。走。り。竹。梁。山。泊。の。去。これ。と。ん。て。急。に。逃。行。せん

とを。一。知。お。軍。師。兵。勇。三。軍。に。下。知。して。云。る。ハ。必。ず。彼。と。逃。と。ま。れ。
 我。宜。く。計。と。ひ。て。計。に。執。ん。宋。江。回。て。云。軍。師。を。良。く。計。わ。り。や
 異。用。が。云。今。城。中。に。お。寡。く。云。之。一。の。由。急。に。今。人。と。馳。て。援。を。隣
 兵。に。求。む。我。は。後。機。不。索。と。て。一。ツ。の。計。あり。親。方。の。云。支。彪。と。偽。て。隣
 國。の。援。を。小。假。終。務。再。三。是。と。残。り。城。中。より。け。光。宗。城。に。入。必。ず
 云。と。出。て。我。と。助。ぐ。べ。し。時。暗。に。人。を。と。分。て。城。を。奪。れ。し。め。又
 高。麗。と。小。旗。に。引。入。れ。終。に。これ。と。生。捉。べ。し。宋。江。是。と。呼。て。大。お。恥。ひ
 即日。戴。宗。と。梁山。泊。に。回。して。支。彪。の。云。と。死。し。め。別。これ。と。假。す。支。彪
 の。援。を。と。り。お。り。高。麗。は。毎。夜。城。中。に。燔。火。を。揚。ぎ。て。援。を。の
 る。と。偽。り。ぬ。れ。ある。日。宋。江。が。陣。中。我。を。殺。し。て。自。ら。ぬ。れ。し。め。城。を。ど。も
 これ。と。ん。て。此。く。高。麗。に。告。り。に。高。麗。急。に。衣。甲。を。急。し。自。ら。城。樓。に

上り城介と隣を見らに。友玉の援を攻鼓と鳴して。た右より攻来りし。六
 宋江が人も大に死れて。奔走。高廉これを見て。援をせりし。ぞ。戦を
 助けて。宋江と活捉。よとて。死す。正子の門を押し。つれ。至。後。突て。出。去。暮。に
 宋江が。中。疎。小。押。斃。り。り

○黒旋風穴と探て柴進と救ふ

宋江明は。討。死。柴。秦。明。あ。人。と。引。く。戦。も。交。へ。流。小。路。と。て。逃。走。は。高
 廉。大。に。罵。て。云。宋。江。城。首。何。ゆ。小。逃。さん。や。と。喊。さ。叫。ん。で。を。も。来。り。ぬ。に。
 石。砲。の。勢。大。に。雷。一。つ。高。廉。心。を。疑。か。し。め。遂。に。宋。江。と。棄。て。引。回。さん。
 下。ぬ。に。ぬ。邊。に。又。金。鼓。の。聲。大。に。起。て。左。小。呂。方。右。小。郭。盛。双。方。より
 突。て。出。勢。て。又。百。餘。騎。と。引。て。攻。へ。高。廉。残。人。氣。力。を。急。小。路。と。索
 て。逃。り。に。し。や。云。と。中。村。せ。高。廉。大。小。孩。さ。遂。に。城。下。に。至。て。城。と。り。小。城

中。の。六。劫。て。梁。山。泊。の。旗。號。と。風。に。飄。して。至。り。ぬ。高。廉。と。作。天。
 援。を。と。り。て。た。た。と。影。に。只。一。人。の。援。を。も。あ。げ。ぬ。高。廉。退。り。た。く。後
 悔。し。急。に。放。軍。と。收。めて。徑。路。と。弛。り。十。り。ぞ。り。小。路。し。ぬ。に。山。の。後
 より。一。彪。の。去。突。か。高。先。に。る。と。を。む。ら。ハ。病。尉。遲。疎。を。活。と。揮。て。呼。て。云。
 我。老。早。此。小。在。て。汝。と。待。他。ぬ。あ。く。る。より。下。て。絆。小。就。高。廉。是。と。見。て
 益。恐。懼。し。每。び。引。回。さん。と。せ。ぬ。に。又。一。彪。の。去。弛。歩。の。兵。解。公。來。全。法
 助。と。引。て。高。廉。速。小。傳。と。更。と。呼。り。高。廉。後。より。夾。で。攻。り。ぬ。高。廉。今。の
 士。卒。皆。付。れ。る。鞭。等。く。棄。て。山。の。上。に。馳。よ。さん。と。せ。ぬ。に。雷。横。撲。合。る
 突。出。安。軍。小。命。と。て。山。小。迂。よ。り。し。高。廉。必。死。の。時。小。及。て。慌。忙。と。眼。と
 突。頻。りに。口。中。に。咒。符。と。を。す。れ。ぬ。是。下。小。一。片。の。黑。雲。起。り。再。く。高。廉。と
 引。包。で。空。に。騰。空。に。山。頂。小。の。り。公。孫。播。と。て。以。ぬ。に。緊。切。來。て。刺。る。上

に宝劍と揮り。口中小咒符を唱へ大小一掃せり。高廉雲中へ
 きて神通を失ひ。地に墜ちて山より足下を踏む。死に挿
 虎雷撲扑刀と撲る。馳奔。高廉を斬て。支那とさ。死す。首を
 憐じ。一高廉の世の英雄。一時に南柯後狸の人と化し。宋
 江の高廉に付けし。破。三軍を引て。城中を走入。堅く。法軍に觸
 て。民を救し。秋毫も犯さず。宋江先大牢の辺に。を
 牢中の罪人と煮く。出さし。めを囚と尋ひ。宋江に。高
 を。着居。た。初て。列牢の内。小を。一。先。是。と。救。ひ。出。し。て。再。び。宋
 と。方。く。捜。し。り。れ。た。者。て。消息。あ。れ。ば。宋。江。大。小。憂。我。が。人。を
 起して。城を。攻。め。ま。す。の。と。宋。を。救。え。ん。が。為。に。宋。を。の。牢。中。に
 入。る。の。必。定。殺。され。ん。と。覺。え。り。と。支。那。に。液。と。浮。り。一。六。具。用。が。あ

我れを。殺。せ。り。先。悲。を。う。ち。ま。り。と。於。て。牢。中。の。高。級。ホ。と。彼。ら。う
 引。せ。り。宋。を。死。せ。し。め。り。宋。一。人。が。云。る。に。宋。を。高。牢。の。高。級。宋。仁
 と。申。す。前。日。知。府。が。命。を。受。て。宋。を。と。り。何。ホ。の。事。出。来。ん。時。に
 子。速。宋。を。命。を。害。す。と。の。事。三。日。前。も。知。府。又。刑。罰。を。加。へ
 ん。と。宋。を。引。出。せ。と。命。じ。ら。れ。た。宋。孰。と。宋。進。が。勅。命。を。相。貌
 端。嚴。と。し。て。宋。の。人。の。め。と。る。刑。罰。を。行。ふ。に。思。ひ。ず。唯。獨。と。病。に
 托。り。如。此。の。日。又。知。府。より。宋。進。を。引。出。せ。と。命。せ。り。宋。又。詐。て。宋。を
 は。り。病。死。せ。り。と。申。す。宋。の。命。を。合。殺。の。事。不。る。事。知。府。又。これ。を。信。じ。り。
 宋。知。府。が。捜。さん。と。な。れ。昨。日。宋。を。頭。切。と。除。き。井。の。内。に。落。し。置。り。
 只。彼。が。今。日。の。存。亡。い。ふ。を。や。あ。ら。ば。宋。江。は。是。を。信。じて。大。小。驚。き。忙。し。宋
 仁。と。申。す。宋。江。に。牢。後。小。の。枯。井。を。内。と。見。し。只。暗。と。思。ふ。

して。源氏幾何とて。と。知く。は。榮仁。小令。ト。索。と。枯井。小。落
 一。入。れて。源。と。探。せ。る。は。約。莫。八。九。丈。の。身。り。之。宋。江。に。れ。て。て。云
 々。八。宋。大。友。人。必。定。以。内。小。死。一。ひ。ひ。と。死。り。に。然。後。也。傳
 一。多。と。吳。用。休。め。て。長。兄。先。哭。さ。り。あ。る。井。の。内。小。人。と。入。て。存。亡。を
 見。り。あ。れ。ば。一。と。と。何。れ。た。と。敬。雅。の。ひ。枯。井。に。入。て。宋。大。友。人。の
 存。亡。を。問。ふ。と。未。だ。云。も。無。く。さ。り。に。黒。旋。風。李。達。大。小。呼。て。我。肯。て。井
 小。入。て。宋。大。友。人。の。死。生。を。見。届。く。べ。し。吳。用。が。云。汝。入。ば。可。う。と。と。
 大。ひ。さ。り。竹。籃。の。大。丈。夫。身。に。籠。り。着。た。ひ。さ。り。於。二。つ。と。結。付。李。達。以
 上。に。坐。り。め。終。て。井。の。内。に。放。ち。入。る。に。漸。く。井。の。底。に。着。り。し。ふ。李
 達。見。小。籃。の。内。より。扒。出。て。一。向。口。方。と。探。り。る。如。に。果。し。一。個。の。人。小
 探。り。着。り。ぬ。宋。大。友。人。と。一。と。呼。ぶ。推。初。し。れ。た。文。に。書。き。る。り。し

ふ。李。達。女。次。以。て。宋。を。が。口。小。著。て。死。生。を。伺。ふ。に。於。微。一。索。の。級
 なる。有。り。た。れ。を。李。達。心。中。に。これ。と。喜。び。遂。に。宋。を。と。籃。の。内。に。扛。載
 已。も。多。く。索。て。彼。於。索。と。動。し。る。如。小。法。人。索。を。取。て。一。度。に。拽。上
 一。ふ。宋。江。是。と。ん。て。大。小。慌。び。先。宋。を。と。お。し。づ。温。免。尚。漸。く。火。氣
 と。探。て。氣。力。を。引。立。書。有。と。加。強。に。車。に。載。て。梁。山。泊。へ。送。り。り。後
 既。於。已。に。高。廉。が。家。に。礼。れ。入。眷。族。悉。く。歡。殺。し。又。金。銀。兼。錢。と
 搜。し。て。車。に。積。三。軍。於。て。高。州。と。離。れ。梁。山。泊。へ。馳。回。る。終。後
 秋。毫。も。氏。と。犯。さ。ず。一。夜。に。出。と。凱。歌。を。唱。て。不。日。に。山。陣。に。出。り。し
 一。晷。蓋。と。始。と。て。流。皆。出。迎。て。大。小。賀。し。慌。び。り。り。以。時。宋。を。い。病
 と。推。て。廳。上。に。お。添。く。後。既。於。に。耐。し。り。以。度。山。陣。に。宋。を。湯。澄
 と。汲。く。孫。光。り。と。増。刺。以。宴。と。役。け。飲。砂。と。惜。し。各。具。小。入。り。扱。束



昌寇州支那の友府は、言廉已に殺されしを、咄たし。急に表を具て
系に殺せんと、魏軍の派一、倭に朝廷に奏せし。又言、唐州の攻
軍を悉く系に上て、以事と併し、以時太尉言、仇ハ姪言、廉が殺され
しを、咄て大に怒り、翌日、又の時、朝廷にありしに、帝、案、殺し出
し、河のりし、文武百友、袂と連れ、左右に、相候も、時、小敵、攻、ま、う、た、め、つ
て、事、の、く、列、と、出、て、奏、せ、し、事、あ、ら、ん、を、廉、と、捲、て、退、去、せ、し、と、云
る、時、太尉言、仇百友の内より、を、出、て、奏、し、り、今、濟州、梁山泊
よ、あ、ま、の、城、を、晁蓋、宋、に、あり、の、流、と、覆、て、山陣、と、ま、り、り、隣、國
と、犯、し、を、精、と、奪、ひ、擅、に、威、と、振、ふ、向、小、も、已、に、濟州、の、友、軍、と、害
を、後、又、江州、と、開、し、去、る、軍、と、歩、今、又、言、唐州、と、案、を、干、の、軍
民、と、殺、し、城、中、の、金、銀、米、穀、を、悉く、奪、り、て、山陣、の、用、に、供、へ、近、く、大

軍と併して系と侵さんと、事の咄えあり。言、急にこれと滅し、わんば
孫、織、勢、と、書、て、大、歌、と、な、り、伏、し、て、辱、し、く、理、下、明、く、ふ、これと、案、し
又、帝、敵、を、大、に、撃、せ、り、列、言、太、尉、に、命、し、軍、を、引、へ、り、
又、言、太、尉、ま、と、奏、し、て、云、彼、を、威、と、振、ふ、と、云、も、い、ま、大、軍、と、是
向、に、是、に、後、今、一、人、の、勇、士、を、薦、め、て、威、と、撃、し、び、し、帝、又、勅、命、を
と、宣、ひ、り、り、の、卿、眼、力、を、り、つ、て、薦、ん、ま、い、定、め、て、文、武、を、全、の、名、將
と、云、ん、速、に、其、名、報、し、て、云、と、起、し、め、よ、高、俸、奏、し、て、い、り、此
者、ハ、河、東、の、名、將、と、り、呼、延、賛、が、玄、孫、に、し、て、呼、延、灼、と
中、者、を、り、系、を、夫、不、尚、の、勇、あり、彼、汝、寧、郡、の、統、制、と、り、て、
よ、下、小、又、精、を、ま、り、を、破、に、ま、り、指、揮、使、の、職、と、授、け、り、ひ、て、梁山、泊
と、攻、ま、り、時、小、山、陣、を、掃、ひ、清、り、て、敵、を、安、ん、ず、し、帝、敵、を

かのて大不抜びぬて勅書と云々 呼延灼と朝廷に宣ふ。以日呼延
 灼ハ汝寧郡に在て公事と辨ト居るに朝廷より勅書到來すと
 報トられバ呼延灼急に城外に出て勅書と迎へ奉る。而ちに統軍目に
 至て勅書と相讀ク一節日用意と調へて天候と云々の事ト云
 日わつて東京の殿帥府に在て言太尉小見一乃知に言休脱で呼延
 灼が人取と云々に汲小一表の人物文武兼後の大將と見へり。抑以
 人出條の御鞭と使ふて神妙と云々と。綽名して雙鞭將と云と
 云々。言休脱日不胡帝廟に百石して徽宗天子の天候と報せられん
 利まると指揮使の綸命なり。賜書鳥騷と云一日千里と云名馬を
 賜ふびるハ渾身墨痕のどく黒く口蹄白毛のどく白れと云て後と
 次呼延灼天恩と報謝して。再び殿帥府小見れば言休脱軍事と後

呼延灼に向ひ。將軍は度惟と云て。先鋒と云しめしや。答て云陣州の
 團練使姓ハ韓名ハ潘と云云あり。京東京の人とて武略の出で。一條
 の束本の棚と使ひひて。人百勝の軍と云。是を正先鋒と云しめん。又外
 に穎州の團練使姓ハ彭名ハ玘。是も京東京の人とて累代門の子
 一知三鉄の切刃と使ふて。天目將軍と云。以人と副先鋒と云しめん。
 凡て其人樊噲の勇力ありて武藝超人小秀でられ。軍利眼茶と云
 んと云休脱大不抜び。述ふは其人へ急使と馳て殿帥府小見られバ
 不日に來て言太尉と云呼延灼に言々云々。言休脱は度の軍勢と云
 一の休脱大不抜畏て於堂に言休脱三乃不同乃各三路の人と云。然
 幾何の勢ありや。呼延灼答て云路の人と云。其莫一方に言休脱言太尉が
 云既不抜の言休脱。自己に敵て軍と云。各遂に出陣を言呼延

灼あつがまままくく之の人のももいい系の来来健健也也。往まわり列れるる志志ををるるんんどど。これこれと
 僅すこにに小こ易よしし。只ただちちくくはは衣い甲か合あううてて。日ひ限げんとと短たん引ひききるるここのの
 んん。太たい尉じゆう宣せんしし。是これとと驚おどろしし。人ひと言ことはは言ことはは言ことはは。言ことはは言ことはは。言ことはは言ことはは。
 の衣い甲かをを取とりりしし。ととああべべ。只ただ意いにに日ひとと擇えらんんでで出い出で。ああべべ。呼よびよはは灼あつ
 命いのちとと奉ほうてて大だい小せう帳ちやう。別わか別わか甲か三さん子し。死しにに甲か三さん子し。死しにに甲か三さん子し。死しにに甲か三さん子し。
 刀かみ一いつ子し。炮ぱう又また百ひゃく及およびび。弓きう矢や矢や矢や干かんとと乞こ乞こ。已いにに言ことはは言ことはは。言ことはは言ことはは。
 言ことはは言ことはは。言ことはは言ことはは。言ことはは言ことはは。言ことはは言ことはは。言ことはは言ことはは。
 ああべべ。とと命いのち。三さん人にんのの大だい將しやう。小せう太たい尉じゆう。言ことはは言ことはは。言ことはは言ことはは。
 國くに小こ將しやう。軍ぐんとと僅すこしし。

新編水滸畫傳卷四拾六畢

